



令和初の正月を迎えて

杉循環器科内科病院 院長

杉 健 三



令和初の正月を迎えました。

令和元年は正月も入学式も経験出来ませんでした。令和の代が平和で活気あふれる日々となることを願ってやみません。

私どもの医療法人シーエムエスは1987年に杉循環器科内科病院を開設して以来、昨年12月で32周年を迎えました。その間、2008年には社会福祉法人木犀会をグループに迎え入れ、現在では大牟田市および柳川市に医療法人3病院と社会福祉法人3事業所を運営しており、いずれの病院も介護系事業所も地域への貢献において一定の評価を受けているものと自負しています。

さて、我が国の人口減少・少子高齢化社会の到来をうけて、医療・介護にかかわる新たな政策が次々に実施されてきました。住み慣れた地域で高齢者が自分らしい人生を全うできるように医療介護にかかわる多くの職種が連携して支える「地域包括ケアシステム」の構築および地域ごとの医療提供体制の再編を目的とする「地域医療構想」が国の施策として進められています。また、地域医療構想、医師・医療従事者の働き方改革、医師偏在対策を「三位一体」で推進していく国の方針も既に表明され、この4月にはこの政策を推し進める方向での診療報酬改定がなされます。

この地域も既に人口減少および高い高齢化率を呈しており、病院および介護事業の運営もこれまで同様の在り方では地域の状況とはそぐわない部分が顕在化してきたように考えられます。特に3力所の病院については、早急に医療機能のみならず療養環境の整備や運営の在り方を地域の需要に合わせたものに変えていかなくてはなりません。

しかしながら、「地域包括ケアシステム」も「地域医療構想」も医療・介護スタッフの確保なしには実現は不可能でありながら、医療においても介護事業においても人材の確保という解決が容易ではない大きな課題があり、上のような政策に対応するための新たな事業の展開は言うまでもなく現在の事業の継続にも大きなハードルとなってきています。

医療法人シーエムエスでも社会福祉法人木犀会でもこの数年はスタッフの確保には苦勞しており、外国からの優秀なスタッフの力も借りてどうやら運営していますが、今後も早急に状況が改善することは望み得ないと思われれます。

地域が必要としている質の高い医療と介護を提供するためにも人材の確保は急務であり、今後もあらゆる方策を駆使して質の高い職員を確保していきたいと考えています。



医療法人シーエムエス

杉循環器科内科病院

〒837-0916 大牟田市大字田隈950-1 (誠修高校前)
TEL(0944)56-1119 FAX(0944)56-2077
E-mail:info@sugi-hosp.jp URL http://www.sugi-hosp.jp



医療法人シーエムエス

柳川 すぎ病院

〒832-0826
柳川市三橋町高畑263-1
TEL:0944-72-7171



医療法人シーエムエス

日の出町すぎ病院

〒836-0806
大牟田市東新町2-2-5
TEL:0944-55-3000

柳川すぎ病院院長就任のご挨拶

柳川すぎ病院 院長
池田 久雄

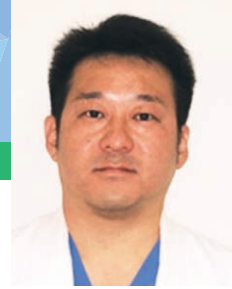


医療法人シーエムエスグループのひとつである柳川すぎ病院に、開設34周年を迎えた令和元年12月、院長として就任致しました。当院は、平成25年8月に前身である医療法人正寿会鎌田外科病院を承継し柳川すぎ病院に名称を変更。平成26年1月に医療法人シーエムエスで医療法人正寿会を併合し、医療法人シーエムエス柳川すぎ病院となり、今年で6年目を迎えています。内科、循環器内科およびリハビリテーション科を標榜する63床の回復期型病院です。循環器専門病院として、地域に浸透し始めており、胸痛、動悸、息切れなどの症状があつて外来を受診される方々が増えてきました。現在、副院長の古瀬範之先生をはじめとして、職員が一丸となって、多職種協働のチーム医療を行なっています。

令和2年2月からは、当院では、新たにサルコペニア/フレイルに対する専門外来を始めました。これは、既に平成27年5月から、シーエムエスグループである杉循環器科内科病院および日の出町すぎ病院において行なっている専門外来です。サルコペニアは「加齢に伴い筋肉量が減少した状態」のことで、フレイルに最も影響を与える因子です。サルコペニアになると筋力が低下するとともに歩行速度も低下して身体活動量が低下します。その結果、食欲が低下し栄養不足となり、筋肉量が減少して、サルコペニアがさらに進行するという、いわゆる「フレイルの悪循環」におちいります。この悪循環を断ち切るためには、1) 適度な運動（有酸素運動だけでなく、筋力トレーニングを行う）、2) バランスのとれた栄養（たんぱく質摂取など）、3) 社会と人とのつながりを持つことが重要で、フレイルの予防・治療には心臓リハビリテーション医療の応用が可能であると考えています。

超高齢社会を迎えた日本では、「高齢者の病気だけを診るのではなく、病気をもった高齢者をどのようにケアしていくか」が、今後の重要な臨床課題です。75歳以上の高齢者における要介護の第1位の原因がサルコペニア/フレイルです。令和2年度から、厚生労働省は75歳以上の後期高齢者を対象にフレイル健診を導入することを決めています。そのような中、サルコペニア/フレイル専門外来の意義は大きいものだと考えています。これまで以上に、当院の理念のひとつである「地域社会への貢献」ができる病院を目指していきたいと考えていますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。

心不全パンデミック

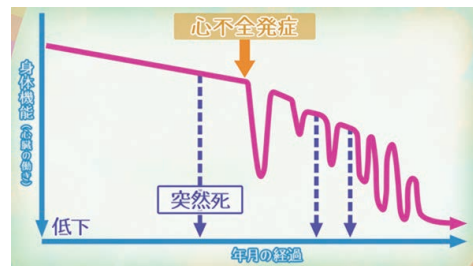


杉循環器科内科病院 副院長 香月 与志夫

心不全パンデミックという言葉をご存知でしょうか？日本は世界でもトップの平均寿命を有しており、高齢化社会となっています。高齢者の増加に伴い、高齢心不全の患者さんが大幅に増えることを心不全パンデミックと言います。

心不全とは心臓が悪いために、息切れやむくみが起こり、だんだん悪くなり、生命を縮める病気です(日本循環器学会・心不全学会)。その原因としては虚血性心臓病(狭心症や心筋梗塞)、高血圧症、不整脈、心臓弁膜症、心筋症等があります。

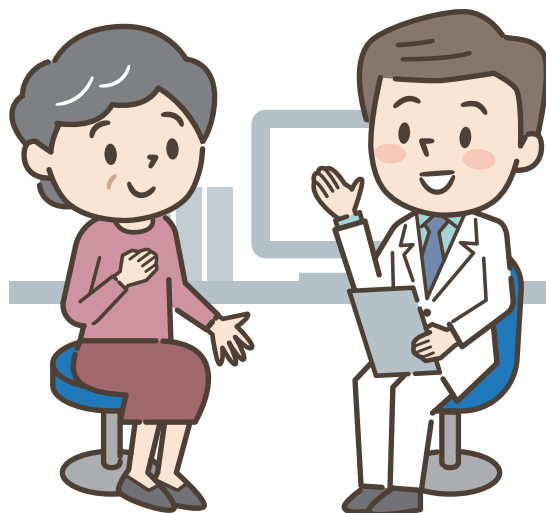
また、心不全は繰り返すと治療により改善しても、心臓や身体の機能は徐々に落ちていきます(図1)。ですから心不全を発症しないようにすることが重要になってきます。



〈図1〉

患者さんの寿命、および健康寿命を延ばすためにも薬の内服をしっかりすることだけではなく、食事、運動、生活習慣に注意して頂くこと、調子が悪いと感じたら早めに受診して頂くことをお勧めします。

杉病院では今後も、患者さん、患者さんのご家族、医療サイドと一体となって心不全発症を予防することに努めてまいります。

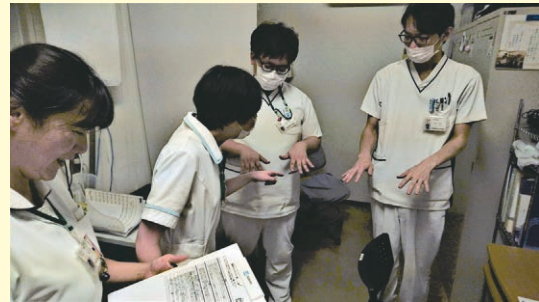


医療安全、感染予防に対する取り組みについて

事務部長 森田 宏樹

入院・外来に関わらず、病院が患者さんに「安心・安全」を提供するためには、「医療安全対策」「感染予防対策」が不可欠です。

「医療安全対策」は、「うっかり」「しまった」などを含む人為的ミスや、「なんとなく」危ない状態になっている機器などの配置改善、また、治療や看護等の手順をより安全な方法に変更してゆくことなどを行っています。具合的には週に1回「医療安全対策室」で、院内から報告がある「インシデントレポート(ヒヤリハット報告)」を分析し、対策・指針を指示します。月に1回「安全対策委員会」では各部署からの代表者で現場の問題解決を考えたり、ラウンド(巡視)を行ったり、また方法の変更を周知したりしています。



「感染予防対策」は院内感染を予防、改善するために行います。当院ではICT(感染対策)チームが、日々の感染対策について指示(職員のインフルエンザ予防注射開始など)を出し、また各部署からの代表者で構成する「感染対策委員会」で月1回の院内ラウンドを行っています。

「医療安全対策」「感染予防対策」について、院内でしっかり対策することはもちろんですが、近隣地域での状況把握や最新の情報の取得など常により良い対策を目指して、他の病院と連携も図っています。「医療安全対策」では大牟田市立病院と、また、「感染予防対策」では済生会大牟田病院と連携しています。具体的にはICTの会議で感染対策の情報交換を行ったり、医療安全対策では年1回大牟田市立病院の安全対策室スタッフが院内ラウンドを行ったりしています。

安全対策・感染予防対策を常に行い、少しでも安心安全な医療を提供して、地域に貢献できるように職員一同で取り組んでゆきます。

医療機能評価受審を終えて

事務室主任 境 慎一郎

2019年8月に医療機能評価更新審査を受けました。当院は2004年9月に医療機能評価の認定を受け、今回が4回目の受審です。毎回重点テーマが変わりますが、今回の主要な検討テーマは、

1. 理念・基本方針の浸透および達成に向けた取り組みについての確認
2. 継続的な質改善活動の実績を取り入れた評価
3. 理念達成に向け価値・行動規範を共有した組織運営の仕組みを確認

となっていました。どの項目も難しい課題ですが、特に「継続的な質改善活動」については、頭を悩ませることとなりました。前回の審査結果を振り返っていると、継続的な活動を行っている部分もありましたが、前回の指摘事項に挙げられている課題がそのままになっている事も多く、課題が山積みからのスタートでした。ただ、悩んでいる時間はなく、すぐに評価機構より提示された評価項目に担当者を割り振りし、規程やマニュアルなどの資料整備に取り組んでいきました。

また、前回の受審より始まった外来⇒入院⇒退院までの患者さんの流れを多職種がどの様に関わっているかを評価されるケアプロセス調査では、症例を早く決めて練習しないとはいけません。当院の特徴である急性心筋梗塞や慢性心不全、今年度より運用を開始した地域包括ケア病床対象の症例を選択し練習に励みました。それぞれの準備には、業務中にはなかなか追いつかず業務終了後に取り組むことも多々ありました。

訪問審査では、診療・看護・事務領域のサーベイヤーによる評価を受けました。院長、事務部長、看護部長をはじめ各部の所属長の挨拶を皮切りに様々な書類、部署訪問、ケアプロセス調査を受けていきました。サーベイヤーは、欠如しているものを的確に指摘され、考えさせられることが多かったとのことですが、当院の規模や地域性に見合ったアドバイスも頂き、有意義な時間となりました。

総評においては、様々な規程などの基準は、大学病院並みに整備されていることと訪問審査中に患者さんとの積極的な会話などから地域に密着されている病院であるとの評価を受け、非常に嬉しく思いました。

今回の審査により業務を客観的に見直すことが出来たと同時に、多職種と一緒に話し合い、取り組む事でチーム医療の大切さが再認識できました。最後になりましたが、遅くまで資料や規程の準備等に取り組んで頂き感謝致します。お疲れ様でした。



第9回 透析セミナーに参加して

医療機器管理室 甲斐 弘樹

11月17日（日）特別養護老人ホーム、「すぎの木」にて第9回透析セミナーが開催されました。今回のテーマは「見て・聴いて・触って・しっかり透析」でした。参加された患者さんに対して腎臓内科医師をはじめ、看護師・臨床工学技士・理学療法士・管理栄養士より講義を行いました。

臨床工学技士より、シャントマッサージについての方法などの話をしましたが、今回は講義のみではなく、患者さんと一緒に実際にやってみるという実践的な内容で、患者さんにとって有意義なものになったのではないかと思います。

この講義を通して患者さんにご自分のシャントについての理解を深めてもらい、更に、患者さんのシャントが少しでも長く良い状態が保てるようになればいいなと思いました。

他の講義でも患者さんから活発な質疑があり、盛況のなか無事にセミナーを終えることが出来ました。

今後も多くの患者さんやそのご家族に参加していただけるよう、信頼関係を築き、また患者さん個々と向き合い、より安全安心な医療を提供できるよう努力していきます。



柳川すぎ病院

第3回

健康教室を 開催しました

柳川すぎ病院 リハビリ室室長
江崎 かおる

令和元年11月17日(日曜日)『生き生き暮らそう健康長寿』をテーマに、柳川すぎ病院では第3回健康相談教室を開催し、三橋町を中心に大和町や大川市から36名の方に来院していただきました。

無料健診では血管年齢・筋肉量・骨密度・握力・バランステストなどの測定を行い、実年齢と比較し『若かった』や『脂肪が多かった』などと話されて、昨年のデータを持参し比較されている方もおられ関心の高さを感じました。相談コーナーでは、医師へ血圧などの相談や無料健診の結果を相談され、日頃の生活のアドバイスなどを受けられました。

治療食体験では、管理栄養士が筋肉や骨に良いポークビーンズ・しらす入りわかめご飯・ヨーグルトプリンを試食を提供し、皆さん『とても美味しい』と好評でした。塩味のチェックも併せて行いましたが、ほとんどの方は基準範囲内で、日頃より塩分量などは注意されているようでした。

特別講演では、池田久雄先生より『フレイルを予防して健康寿命を延ばそう』と題し、まだ耳慣れない“フレイル”について分かりやすく講演いただき、フレイルにならないためには、運動・栄養・人とのつながりが重要で運動は激しすぎず、ややきつい程度の強度が良いと説明されると、皆さんメモを片手に熱心に聴講されていました。講演後、理学療法士よりセラバンドを使用した運動の指導と実技を行い、昨年は、最も弱い抵抗のセラバンドを使用しましたが、今年は2段階強度をあげたものを使用し、皆さんお元気で負けずに頑張られていました。

今回で3回目の健康相談教室ですが、初めて参加される方が半数以上おられ、当院を知っていただく良い機会となりました。参加された皆様の“生き生きとした暮らし”の参考となれば幸いです。来年も開催したいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。



おすすめレシピ

杉循環器科内科病院 栄養室

鮭のムニエル ～グリーンソースで～

【材料(2人前)】

～ムニエル～

- ・生鮭……2切れ
- ・塩……0.5g
- ・小麦粉 ……10g
- ・サラダ油…2g

～グリーンソース～

- ・ほうれん草 ……10g
- ・小麦粉……6g
- ・無塩バター……6g
- ・牛乳 ……40ml
- ・コンソメ……1g

《作り方》

～ムニエル～

- ・鮭に塩を振り、小麦粉をまぶして油をひいたフライパンで焼く。
- ※トースターやオーブンで焼いてもOK!

～グリーンソース～

- 1.ほうれん草を茹で、水気を絞る。
- 2.フライパンにバターを入れ弱火で溶かし、小麦粉を入れる。
- 3.バターと小麦粉を炒めてよくなじんだら、ダマにならないよう混ぜながら少しずつ牛乳を加える。
- 4.ソースが滑らかになったところで火を止める。※硬い場合は水か牛乳を足して加熱。
- 5.出来上がったホワイトソースと茹でたほうれん草、コンソメを合わせてミキサーにかける。
- 6.出来たグリーンソースをお皿に入れ、その上に鮭のムニエルを乗せて完成!



1年中食べられるほうれん草ですが実は冬が旬の野菜。旬のものは通常より栄養価も高くなっています。血圧を下げる栄養素の一つ、カリウムが多く含まれています。

鮭は筋肉に必要なたんぱく質、骨を強くするビタミンDが多く含まれており、「最近足腰が弱ってきた気がする…」という方にお勧めの食材です。



杉病院軟式野球部



医療機器管理室 臨床工学技士 甲斐 弘樹

今年で当院の「杉病院軟式野球部」が結成して6年が経ちます。現在も、月に3~4回の練習を行っており、多職種との交流も含めて楽しく活動しております。



ところで、今年度の杉野球部ですが、大牟田地区で行われている軟式野球公式戦で2勝を挙げることができました。私自身、杉野球部の主将を務めて初の2勝を得ることができ、歓喜に酔いしれた1年になりました。

来年度は、今の勢いをそのままに、公式戦優勝という大きな目標を掲げて日々の練習に励み、スタッフとの交流を深めていきたいと思っておりますので、今後とも杉野球部の応援のほどよろしくお願い致します。



ナースカップで大健闘!!!



第17回 ビーチバレーボール大会

看護師 山西 千紘

9月14日(土)大牟田市民体育館にて大牟田市医師会主催の第17回ビーチバレーボール大会が開催されました。カラフルな杉Tシャツを身にまとい、当院からは3チーム16名が参加しました。私は今回が初めての参加です。バレーボールの経験はありますが、ビーチバレーボールは初めての経験でした。ボールの大きさや柔らかさ、ルールの違いに最初は分からないこともたくさんありましたが、練習を重ねる毎にビーチバレーボールの面白さを感じながらプレーすることができました。



大会当日は珍プレー、好プレーが飛び交い会場は笑顔に包まれました。練習の甲斐もあり、私たちBチームはCパート3位入賞。AチームAパート3位、CチームCパート優勝と3チーム共に大健闘を収める結果となりました。

今回の大会を通して練習から多職種の方々とコミュニケーションを図ることができ、体を動かすことの楽しさを改めて感じる事が出来ました。これらの経験を明日からの業務に活かし、来年もまた参加したいと思います。


医療法人シーエムエス
 **杉循環器科内科病院**





関連施設

医療法人シーエムエス
 **柳川 すぎ病院**
 〒832-0826 柳川市三橋町高畑263-1 TEL:0944-72-7171

医療法人シーエムエス
 **日の出町すぎ病院**
 〒836-0806 大牟田市東新町2-2-5 TEL:0944-55-3000

社会福祉法人 木犀会
 **特別養護老人ホーム すぎの木**
 〒837-0905 大牟田市大字甘木44-1 TEL:0944-58-1112

社会福祉法人 木犀会
 **ケアハウス やぶつばき**
 デイサービスセンター ホームヘルプサービス
 介護予防・相談センター ケアプランセンター
 小規模多機能ホーム こどう 地域交流センター ばるす
 〒836-0897 大牟田市青葉町130-2
 TEL:0944-55-6666

介護付有料老人ホーム **ゆずりは**
 〒836-0806 大牟田市東新町2丁目1-1 TEL:0944-41-2250

交通のご案内

- JR大牟田駅よりバスで約15分
- 西鉄新栄町よりバスで約10分
- JR大牟田駅よりタクシーで約8分
- 西鉄新栄町よりタクシーで約7分
- 九州新幹線 新大牟田駅よりタクシーで約5分

